case 07 製造業

株式会社小保木製作所

社員食堂を従業員の子どもに開放、身近な環境で安心して仕事ができる

部品検査などの業務を行う女性主力の職場で、幅広い世代の女性従業員がいますが、地域に学童保育などのサービスがないことから、社員食堂を従業員の子どもに開放し、子育て期でも安心して仕事に打ち込める環境を整えました。子どもたちに目を配る従業員の協力と、子ども同士の助け合いによって運営され、従業員の働きたい意欲を仕事に反映させることにもつながっています。

企業プロフィール

設　　立：1973年
本社所在地：神奈川県足柄上郡山北町
事 業 内 容：自動車輸送部品の製造
従 業 員 数：35名（うち女性22名）

保育園の迎えの後でも働けるようにしたかったことがきっかけ

当社は、自動車部品の製造をしており、検査などの主力は女性パート従業員が担っています。当社のある山北地域は、学童保育施設がなく、子育て中の従業員は、保育園や学校が終わる時間になると、その時点で仕事が終わってしまうことになっていました。子どもの迎えの後も仕事ができるような体制にしたいと考えたことが契機になり、社内のスペースを子どものために開放するという現在の取組みが生まれました。
基本的に小学校までの子どもがいる従業員を対象に（現在は3名）、子どもたちが放課後の時間を過ごせるよう、社員食堂を開放しています。子どもたちはそこで宿題をしたり遊んだりしながら、親の退社時刻まで過ごしています。とはいえ毎日ではなく、家で子どもの面倒を見る人がおらず、仕事が立て込んでいる時に限るなど、従業員自身が利用する基準をきちんと決めているため、会社にとっても無理のない形で成り立っています。山北地域は三世代同居のケースが多く、普段であれば、祖父母に子どもを見てもらえることが多いからです。

特徴的な制度と取組み

- **子育て中の従業員のサポートのため、社員食堂を従業員の子どもに開放。**
- **子の看護休暇を有給に（有給部分は年5日間まで）。**

取締役専務
小椋 健司

安心して仕事ができる環境を提供し、子ども同士の協調性も育まれる

社員食堂を利用するのは、月に2～3回の土曜出勤の日や、夏休みで学校が休みの時などが多く、一日いる場合は、お昼持参で来ます。社員食堂は事務室の隣にあるので、事務員が目を配っており、工場勤務の従業員も安心して仕事をすることができます。また、複数の子どもたちがいる場合、年長の子どもが下の子どもの面倒をみることになり、自然に協調性が身に付いてきています。

子どもたちに開放中の社員食堂の様子

働きたいという意欲を会社でサポートすることは利益にもなる

育児休業は過去2名が取得し、その後育児短時間勤務に入っています。子どもは生き物で、親の想定通りに物事を進めることができないことが多く、例えば保育園に行きたがらなくなり、朝、家を出る時に手を焼く時期もあります。そのような場合は、一時的に勤務時間を変更するなどして、できるだけ会社側もサポートするようにしています。せっかく技術が身に付いて、働きたいという意欲があるのに、育児のために辞めてしまうのはもったいなく、会社にとっても損失となります。短時間勤務でも会社への貢献となるのです。安心して子育てと仕事ができる環境を整えることは、従業員の能力の発揮につながり、会社の利益にも大きく貢献するものと考えています。

従業員の声

仲が良く居心地の良い会社で、長く働く意欲が湧く

事務部
松本 舞

●利用した制度：育児休業（1年6カ月間）、育児短時間勤務
●取得した経緯
子どもが10月に生まれ、翌年4月に希望の保育園が待機状態になったため、延長して1年6カ月の育児休業を取得しました。復帰後は、定時より朝を1時間遅らせて、9時から17時までの勤務とする短時間勤務をしています。

仕事をバックアップしてくれる雰囲気がある
育児休業中も子どもを見せに来たりして、仲が良く、家庭的な雰囲気のある会社です。ベテランの女性パート従業員にも、子どもと一緒に、娘のように可愛がってもらっています。今は保育園の迎えがあるため、定時で帰れるように周りも配慮してくれて、どうしてもという時には勤務時間の相談にも乗ってもらえるので、このような環境で仕事ができるのは非常にありがたいと感じています。居心地の良い会社なので、長く働きたいという意欲が湧いてきます。

いざという時、子どもを連れてこられる場所があるのはありがたい
自分の入社当初から、社員食堂に時々子どもたちが来ていることを知っていましたが、自分が子どもを持つ立場になり、そのありがたさを実感しています。子どもが熱を出して保育園から引き取るように言われて迎えに行っても、子どもは元気に動き回っていることが多くあります。このような場合、仕事が立て込んでいる時期には、子どもを会社に連れてきて、自分が帰れるまで社員食堂で見てもらうことがあります。すぐ目の届く場所にいるのでとても安心です。夏休みの時期は、小学生のお子さんが来ていて、私の子どもの面倒を見てくれたりもします。働きながらの子育ては、子どもと会えない時間も多いので可哀想かなと思ったりもしますが、子ども自身は社会に出ることで学ぶことも多いはずです。私自身も子どもから少し離れることで、逆に優しく接することができるようになっています。